ヤマガラの亜種に就て

Notes on some races of the Varied Tit

黒 田 長 久

Nagahisa Kuroda

私は「鳥」63号で鹿児島県佐多村産のヤマガラを新亜種と認め *sataensis* と命名した。以下はその際山階研(靱山標本多数を含む)の各地の標本を比較した結果の私見である。但し特徴の明かなオーストンヤマガラ、アマミヤマガラ、ウツリョウヤマガラ等は除く。

ヤマガラ *Parus varius varius* Temminck & Schlegel

調査標本 千島エトロフ島, 南北海道, 本州(西は鳥取1例, 滋賀1例, 三重), 隠岐。

羽色 顔面等のクリーム色は中位で, 殆んど白色から可成り額に着色したもの迄変化があり(岩手, 越後等では淡いものが多いらしい)脇の栗色は標準的, 背面, 次列風切外縁等の蒼色は雄新羽(3月)では純(特に岩手, 越後, 三重の例)であり, 雌は稍淡く且オリーブ色を帯びる(特に東京, 静岡等の例)。北海道でも区別なく, 顔面は淡い(4例)。千島の標本は顔面寧ろ赤味多く, 脇の栗色も濃い傾向がある。尙下田産の1例は背面僅かに暗色である。

測 定 (* 印: 標本のない山階研測定記録を加算)

千島エトロフ島 4 (翼長は 6*) ♂♂, 2 (翼長は 3*) ♀♀

	Wing		Tail		Culmen		Tarsus	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
最 小	74	71.5	50	48.5	12.5	12.5	18	17
最 大	81	75	55	49	13.5	13	18.5	18.2
平 均	78.4	74	53	48.7	12.8	12.7	18.5	17.7

北海道石狩 2 (翼長は 4*) ♂♂, 1 ♀

♂	♀	♂	♀	♂	♂	♂	♀
76	74	53.5	50	13	13.5	18.5	19
79.5		56.5		14		19.5	
(平均 77.5)							

新潟 (31), 富山 (1), 青森 (1), 岩手 (1) 23-24 ♂♂, 8-10 ♀♀

	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
最 小	73	71.5	49	46	12	11.5	18	18
最 大	80	76.5	59	50.5	14	13.8	20	20
平 均	76.5	73.2	53.8	48.7	12.7	12.8	19.1	18.6

三重 (3), 静岡 (2), 東京及埼玉 (11), 栃木 (4) 10-12 ♂♂, 6 (尾長)-9 ♀♀

	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
最 小	75	70	51	48	12.5	12.5	18	18
最 大	79.5	74.5	55.5	50	13	13.5	20	19.5
			(59)					
平 均	77.5	72.7	53.7	45.7	12.8	13	19.2	18.8
			(54.3)					

隠岐 4 unsexed. Wing 70-75 (72, 9), Tail 50-52.5 (51.3), Culmen 11.8-13 (12, 4), Tarsus 19-19.5 (19, 3)

測定による地方的差は先づ認められないが、更に多くの標本では或程度の差が明かとなろう。

附 記：愛知 (名古屋) の 4 標本は何れも嘴が特に長い。顔面、胸腹部及び横腹は著しく濃色で高知県の例の如く *ijimae* に近い。但し背はオリーブは強いが (♀?) 淡く、東京、静岡等のものに近い。測定 (性不詳) は Wing 75-79 (77.2), Tail 49-56 (52.6), Culmen 13.5-14.5 (14.2) である。この地方のものが長嘴濃色の一つの小ポプュレーションを形成するか否か、将来の調査が必要と思う。

ツシマヤマガラ *Parus varius' ijimae* (Kuroda)

調査標本 高知県 (4 例), 福岡県 (3 例), 対馬 (9 例)

羽 色 対馬の typical なものは顔面、胸腹部及び脇が顯著に濃色、背、翼等は暗色でオリーブ色が強い（特に雌）。筑後のものも先づ *ijimae* と同定出来る。高知県の 4 例中 2 例(高知)も同様であるが、1 例（香美郡山花村）は *varius* との中間、他の 1 例（土佐郡鏡村）は寧ろ *varius* である（4 例は何れも 1, 2 月の標本）。之は或は越冬個体かと思われる。将来紀伊半島、四国北部、中国地方等のものの同定が必要である。

測 定。

高知県。

1♂	Wing 78	Tail 54	Culmen 12.5
3♀♀	" 72-74.5 (73.5)	" 52.5-55 (52.3)	" 11.5-13 (12.5)

福岡県（筑後）。

3♀♀ Wing 71.5-75.5 (73.0), Tail 49-50.5 (49.8), Culmen 12.5-13 (12.8)
Tarsus 18-19 (18.7).

対 馬。

8♂♂ Wing 76-78 (77.3), Tail 53.5-58 (55.5), Culmen 12.5-13 (12.6),
Tarsus 18.5-20 (19.2).

1♀ Wing 70.5, Tail 51.5, Culmen 13, Tarsus 18.

測定上は *varius* と大差ない。

サイシユウヤマガラ *Parus varius saisiuensis* Kuroda & Mori

調査標本 濟州島（多数の靑山標本を含む）。

羽 色 目録では *varius* に含まれているが、一連の標本を並べて見ると背の色は *varius* よりも暗色（オリーブを帯ぶ）であるのが容易に見分け得る。特に雌に於ける強いオリーブ色は対馬産のものと同等或はそれ以上の個体もある。

原記載では顔面等は淡いとあるが、靑山標本の多くのものは相当濃く、脇の栗色も *ijimae* に似て濃い。唯濟州島のものは嘴が太いが、対馬のものは中間乃至稍細く本州のものに近い。

測定 42♂♂, 24♀♀。

	Wing		Tail		Culmen		Tarsus	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
標本数	42	21	41	23	37	24	42	14
最 小	75	71	53	48.5	12	11.5	18.5	18
最 大	81	79	61.2	56.5	14	14	21	20
平 均	80.5	75.5	57.4	53.1	13.1	12.8	20.0	19.1

測定は全般に大型で、特に翼長、尾長、跗蹠が平均上確かに長い。嘴は太く先が円い。山階博士は翼長 81.5 迄を計られている。(日本の鳥類と其の生態)。

チヨウセンヤマガラ *Parus varius koreensis* Kuroda & Mori

調査標本 朝鮮 (木浦)。

羽 色 目録ではやはり *varius* のシノニムとされているが、次の様な特徴がある。顔面等や脇の色は濃く *saisiuiensis* に似ているが、背は純な青蒼色で (オリーブ色がなく)、本州の *varius* より多少淡色の傾向がある。原記載でも *saisiuiensis* より淡色な事が指摘されている。嘴は太い方で *saisiuiensis* 型である。

測定

4♂♂ Wing 77-80 (79.9), Tail 55.5-58 (57.1), Culmen 12-12.8 (12.6), Tarsus 18.5-19.5.

2♀♀ Wing 74 (1 羽), Tail 49, 53 (51), Culmen 12, 13 (12.5), Tarsus 18 (1 羽).

測定上は翼長、尾長が少く共雄に於ては *saisiuiensis* 同様長いものと思われる。山階博士は翼長 81.5 迄を計られている。

タネヤマガラ *Parus varius sunsunpi* Kuroda

調査標本 種ヶ島 (♂, ♀)。

羽 色 下面は *varius* と大差ないが、顔面のクリーム色は何れの亜種より淡く白色に近い。背は多少オリーブを帯び最も「暗色」である。

測 定

1 ♂	Wing 77.5	Tail 53.5	Culmen 13	Tarsus 19
1 ♀	" 70.5	" 49	" 12	" 18.5

山階博士 (lit. cit.) は黒田博士の 10 ♂♂, 5 ♀♀ の測定 (Wing 74.5-77 (♂♂), 71.5-73 (♀♀)) を表記され, *varius* より多少小さいとされている。嘴は稍短いが太く先が円い。

カゴシマヤマガラ *Parus varius sataensis* Kuroda, Jr.

調査標本 鹿児島県佐多村 (♂, ♀)。

羽 色 顔は *sunsunpi* 同様殆んど白色で, 下面は *varius* や *sunsunpi* と異ならないが, 背面の色は少しもオリーブを帯びない純な濃スレート蒼色で, *varius* 雄の色を強く “濃色” にした色で, *sunsunpi* の如く “暗色” でない。これ等の点で *ijimae* とは全く異なる (雄, Type)。同時採集の雌は全般に色あせた羽毛であるが, やはり全くオリーブ色を欠く純な蒼色を呈し雨覆等は濃い。尙黒田・森岡博士 (動雑 36 巻, 316 頁) は南九州のものは恐らく *sunsunpi* であろうと述べられた事がある。分布範囲は更に調査を要し鷹司博士 (動雑 30 巻, 439 頁) は桜島から *varius* を報告されている。

測 定

♂	Wing 77.5	Tail 55	Culmen 12	Tarsus 19.5
♀	" 73	" 50	" 12	" 19

恐らく *sunsunpi* 同様多少小形であろう。嘴もやはり太く (短かく) 先が円い点で似ている。

附 記: ヤクシマヤマガラは顕著な亜種でナミエヤマガラに最も近く (後者に於て多少オリーブが強く, 顔面, 脇等も濃い), 測定はタネヤマガラと同様小さく, ナミエヤマガラは *varius* に略々等しい。

Résumé

The validity of some races of *Parus varius* were re-examined based on the material preserved in the Yamashina Museum which includes large series of Momiyama collection.

P. v. saisiuensis and *P. v. koreensis* synonymized under *P. v. varius* in the Hand-List, 1942, were considered as recognizable. The both are average larger in size (with thicker bill) than *varius* or *ijimae*. Compared with *varius* their face and flanks are a little deeper in color, the back is purer and paler in *koreensis*, but olivaceous in *saisiuensis* as in *ijimae*.

The four specimens from Nagoya, Aichi Prefecture, Honshu, were found to be as deep colored as in *ijimae* on the under surface and all of the four specimens had distinctly long bill. They may, therefore, form a small local population of such characters. The diagnosis of the author's new race, *sataensis*. (Tori, no. 63), was also given.

ハゲワシ卵の測定

The Measurement of an egg of the Altai Cinereous Vulture.

靱山徳太郎

Toku T. Momiyama

このハゲワシ *Aegypius monachus chincou* (Daudin) は京都動物園飼養の雌で、昭和 22 年 (1947) 3 月 21 日に禽舎内で 1 卵を産下した。その測定は 95×68 mm. であった。

ハゲワシ卵の測定は上野動物園の福田信正氏が京都で得られたものを示教あったもので、筆者は此の卵を直接には見ていない。従って殻色については不明である。

Résumé

An egg of *Aegypius monachus chincou*, laid in the aviary of Kyôto Zoo on March 21, 1947, measured 95×68 mm.